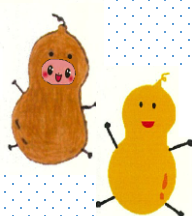




「さすけねえ音頭」の歌手として知られる新道明里さん。田沢で生まれ育ち、活動が続けている新道さんに歌手になったきっかけや、平成十年のデビューから現在までの軌跡、今後の抱負や夢についてうかがいました。

「デビューから二十三年。支えてくれた皆さんに伝えるため、これから歌い続けていきたいです」
新道明里さん

かわら版



Q 歌手になったきっかけは？

幼い頃から父の影響で演歌が大好きで、小学生になると父と一緒にのど自慢大会に参加していました。中学生・高校生の頃にはあちこちの大会で優勝し、トロフィーをたくさんいただきました。当時も今も、力強い海の歌が大好きで、大会では「男船」一本で挑んでいました。デビューしたのとは二十代前半の頃です。数年前に逝去された田沢の遠藤春雄さんが詞を作り、同じく地元出身のプロの作曲家の遠藤勝美さんに曲を依頼した「さすけねえ音頭」の歌手として、遠藤春雄さんに声をかけていただいたのがきっかけです。

Q 名前の意味や活動は？

新道明里という芸名は「ふるさとを明るく照らす新しい道しるべに」という思いを込めて父が付けてくれたものです。「さすけねえ音頭」の歌詞には合戦場の桜や杉沢の大杉、名目津温泉、日山など岩代の魅力スポットがちりばめられています。作詞と作曲をしてくださった二人の遠藤さんの故郷を愛する気持ちから生まれた歌で、岩代

♡オリジナル曲CDリスト♡

- * 【さすけねえ音頭／いわしろ慕情】
- * 【神楽／ほれほれ音頭】
- * 【津軽恋歌／大漁華】
- * 【いわき丸／愛は幻影】（最新作）



2012年に福島市で開催された「こでらんに博」のオリジナルソング「こでらんに音頭」も新道明里さんが歌を担当。ネットで検索できます

新道明里さんの夢やメッセージは？

★新曲発表会を実現させたいです！

昨年、新曲発表会と22周年記念を兼ねてコンサートを予定していましたが、コロナの影響で中止となってしまいました。将来、岩代の皆さんと貸し切りバスで新曲ゆかりの地、いわき市を訪れ、小名浜港の「いわき丸」の前でコンサートを実現したいです。

★岩代の自然の中で歌いたいです！

例えば、合戦場や日山、大杉の自然の中で歌うなど、感染対策を万全にしながら、地元の皆さんを歌で元気にすることができたらとても嬉しいです。

★皆さんと一緒に歌う場をつくりたいです！

将来、演歌や歌謡曲が好きな仲間が集えるような場所をつくり、みんなで歌ったり、希望する人には歌の指導やアドバイスなどさせていただけたら嬉しいです。

Q 今、改めて思うことは？

五周年、十周年、十五周年と記念コンサートを開催し、多くの人に祝っていただきました。歌を通して色々な人と出会えて支えていただいていることが大きな励みになっています。時には、厳しい言葉をいただくこともありますが、それもありがたいと感じています。コロナ禍で休業を余儀なくされていますが、また岩代の皆さんの前で歌わせていただけたことを心から楽しみにしています。

お問い合わせ先

◇アサヒ音楽企画

代表兼チーフマネージャー
遠藤 金一さん



「皆さんの前で歌わせていただけることが大きな喜びです。少人数の集まりでも、気軽に声をお掛けください」

※「さすけねえ音頭」福島バージョンはYouTubeで聞くことができます。

★2021年秋★ 日山キャンプ場を 竹あかりが照らします！



「岩代竹あかり」活動として、日山キャンプ場を竹あかりで照らします。

＊期間／9月下旬～10月末
＊場所／管理棟周辺を予定

～ワンナイトレンタルも始めました～

管理棟に置いてある竹あかり&キャンドルを無料で一晩レンタルします(限定10個)。SNS等で竹あかりの画像をアップしていただけると嬉しいです。

興味のある方は、お気軽にお声掛けください。



▲ドライブがてら日山キャンプ場に足を運んで雄大な眺めや竹あかりを楽しんでください。



▲◀名目津温泉を支えているスタッフの皆さん。受付には栗をはじめ季節の草花などが飾られ、季節感を感じさせる

「阿武隈山地の名峰、日山のふもとにある名目津温泉は、昔話

岩代を愛する人がすすめる地の魅力あるスポットを紹介。十回目は、名目津温泉管理運営組合の渡邊周一さんです。

I Love Iwashiro ⑩
名目津温泉&溪谷

にも登場するほど古くから知られる秘湯です。ラドン鉱泉で皮膚病に良いといわれます。私の幼い頃は口太川沿いに源泉と旅館があり、親に連れられて何度か温泉に入った記憶があります。時代の流れの中で、約四十年前に温泉旅館の営業が停止。以来、野湯となっていました。平成二十二年に地域振興策の一環として温泉が再建され、今日にいたっています。小規模ながらも溪流を見下ろす施設は、自然に囲まれてゆっ



▲大きく平らな岩があるのも特徴

◇紹介してくれた方◇

名目津温泉管理運営組合長
渡邊 周一さん



たりとくつろげる雰囲気です。環境に配慮した木材チップボイラーを導入し、一部歩道にもぬかるみ防止のために木材チップを敷き詰めています。一昨年の台風の被害で、溪流沿いの散策路が途中から崩れていますが、川のそばまで下りていき、木漏れ日やせせらぎを楽しむこともできます。十月中旬頃には、木々が赤く色づいて秋の気配を満喫できます。皆さん、温泉にじっくり浸り、のんびりと過ごしていただく

岩代の歴史シリーズ 「塩の道」②

相馬藩が命名した奥州西海道人の往来は、物資の輸送のほか、相馬藩主が参勤交代の帰路としても利用していた。

海道各所の道標を見ると石工が信州からの旅の石工であったり、「野馬追道」との道標もあり、物資の輸送ばかりでなく、野馬追見物など一般の人々の旅路としても利用されていたことがわかる。

幕末、安政五年(1858)の白髭問屋(旧東和町)「諸貨物請立帳」で特記すると、相馬港を利用し海路江戸へと上下する二本松藩・会津藩・相馬藩士の往来も多い。

ちなみに、安政五年は、異国船に対する房州沿岸警護のため、二本松藩が幕府から上総富津砲台の警護を命じられた年である。安政四年(1857)八月には、相馬泉海岸に漂着した琉球人二十一名受領のため薩摩藩士三名が通過しているが、この一行は駕籠三、遠見三人、先掛二人、地案内三人、人足九十人、馬五匹の大部隊で、江戸表道中奉行のお達しが各宿に下り、異国人見物の制限がなされている。当時の情報システム、危機管理能力の高さがうかがえる。